

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

夏まつりも輪のなか町に来て四十と余年客
 息子の電話に口をすべらせて後味わろし
 日落ち込む 阿部はぎの
 炎天を空腹こらえ炭二俵背負いて山坂おりし
 戦時下 石田みどり
 好ましき紺の紺紺涼やかに夢に来ませり母の
 十五周忌 寺崎 悦子
 少子化も不景気もあるう店先に子らのにぎわ
 いちかごろはなし 鈴木 茂子
 梅雨晴れをのがさず来たる子どもらの声喜喜
 としてプールにひびく 大庭 良子
 暑き日を峠の石に腰置けば秋掃らす風はやも
 秋なり 後藤今朝雄
 新機種のように見えたるか黒電話平成の子に
 昭和教える 佐藤 啓子
 団扇手に寝れば暑くはないと言いつ義母の真
 似する八十路のわれも 山田 濱
 湯の宿の窓より見ゆる夏の山川音かすかに下
 を流るる 佐藤キワ子

俳壇

遠藤 秋尾 選

山小屋の新涼に目を覚ましけり
 眠れずに窓辺に寄れば銀河濃し
 夕顔のしだいに夜へ没しゆく
 山々を映して涼し五色沼
 山の主と思しきたけの蛇衣
 蟻生る隠れ蓑なる草色に
 白玉の涼し仏前供へられ

岩澤 伍峯
 岩松 隆志
 跡部祐三郎
 遠藤 忠臣
 阿部 忠孝
 福原 峯子

風間市長の風のそとやき

「甲冑」

かっちゅう

戦国武将ブームが起きている
 昨今ですが、このブームは武将
 の生い立ちや信条、生きざまが
 大きな魅力となつて、人々を引
 きつけているのだと思います。
 インターネットや歴史書などで
 調べ、ゆかりの土地へ行き、そ
 の武将が過ごした時代に思いを
 はせ、さらなる魅力を発見して
 いるのではないかと思います。
 また、魅力の一つには、戦国
 武将が着用した「甲冑」も挙げ
 られるのではないのでしょうか。
 伊達政宗公が着用した
 黒ずくめのよろい、
 金色に輝く三日月型の
 前立てが映える「黒漆
 五枚胴具足」、片倉小
 十郎公や直江兼続公の
 個性豊かな前立て、織
 田信長公や豊臣秀吉公
 の具足、赤備えの真田
 幸村公など。戦国武将の着用
 していた甲冑は、すべてが個性
 的で獨創性があります。

この甲冑を手作りしている
 方々があります。「甲冑工房片倉
 塾」です。毎年7月から3月ま
 で塾を16回開催し、ダンボール
 紙や厚紙、石こうを使い、おの
 おのが1つの甲冑を作り上げて
 いきます。模造の甲冑でも重さ
 が約20キログラムありますが、
 ダンボール紙が原材料なので
 5、6キログラムの軽量で済み

ましてきています。

白石を訪れた人が、甲冑を気
 楽に着て、平成の平和な城下町
 を散策したり、白石城に登城で
 きたりしたら、すてきだと思ひ
 ませんか？ その脇を現代の早
 馬（自動車）が行き交い、街中
 の市（商店）で買い物を楽しん
 でいる姿を想像すると夢が膨ら
 みます。甲冑を着用するのは戦
 のときですが、平時であつても
 大目に見てあげてください。
 「第2回鬼小十郎まつり」が

9月号の答え

「小学館国語大辞典」
 で調べると、「岳」は
 高く大きな山、高山と
 あり「山」は「火山作
 用、浸食作用、造山作
 用によって地表に著しく突起し
 た部分。高くそびえ立つ地形。
 また、その多く集まっている
 地帯」となっています。一般的
 には、山より岳の方が高い山に
 付けられているようです。一番
 高い富士山以外、2、10位まで
 の山は、槍ヶ岳などすべて「岳」
 が付けられています。登山家の
 間では、岩場が多い山のことを
 「岳」ということが多いよう
 ですが、国土地理院ではそのよう
 な区別はしていないそうです。

柳壇

四電 英夫 選

蚊に刺され痒さ口惜しさしばらくは
 ねじ花の山あひにありケアハウス 跡部 祐子
 ひとり居の祭浴衣や華やきて 斎藤 典子

【評】一句目、秋の初めての涼しさを「新涼」
 という。山小屋の一泊にその涼しさに目覚め
 た作者の清々しさが表出された佳句である。
 二句目、眠れぬ夜、窓を静かに開ければ満
 天の星々である。流れるような天の川、果て
 しない宇宙への感動、下五の「銀河濃し」が
 この句の命。

三句目、真っ白い夕顔の花が宵闇に沈むよ
 うに暮れていく。時間の流れとともに、人の
 世のはかなさを一句に。

【評】一句目、同じ悩みを持つ人々には目に
 見えないきずながあり、気持ちも通じ合う。
 他人の痛みの分かる心を持ちたいものである。
 二句目、団扇、風鈴、打ち水など、エコポ
 イントは付かないが、環境に優しい先人の知
 恵。便利至上主義を見直し、青い地球を次世
 代へ残したい。

【評】三句目、メール、ケータイなどに絵文字が
 登場。象形文字にも似た絵文字が、最先端の
 機器に使われている。「歴史は繰り返す」と
 言うことか。



国際コーナー

International Corner

靴の苦勞

日本に「上履き」という言葉がありますよね。学校の
 ホールや教室などで使う裏がとてきれいな靴です。僕
 が生まれ育ったオーストラリアでは、上履きのような
 のはボウリング場の専用シューズくらいしか見たこと
 がありません。学校の教室には靴を脱がずに入ります。家
 に帰っても、台所やお風呂場でも靴をはいたままで歩き
 回ります。寝るまで靴を脱がないのが普通なので、日本
 に来て一日に何回も靴を脱がされることになかなか慣れ
 ませんでした。僕は靴ひもをきつく結ぶので、靴を脱ぐ
 たびに時間がかかって周りの人をいっぱい待たせてしま
 いました。

オーストラリアでは、学校やスポーツ施設、場合によ
 っては家でも専用の掃除をする人を雇っているの、上
 履きは必要ないです。日本の友達に「家の中で靴をはく
 なんて汚いじゃない」と言われるけれど、どこの家庭に
 もちゃんと玄関に靴ふきを置いているし、日本のように
 床に座ったり寝たりしないので、汚いとは感じません。

オーストラリアの子どもたちは、よく外ではだして遊
 んでいます。「Thongs(ソングズ)」と言うビーチサン

ダルをはく子も多いです。たくさん種類があり、最近
 では派手な色のももあります。僕は日本に引越して
 からビーチサンダルの脱ぎやすさに恋に落ちて、よくは
 いていますよ。でも、僕の靴のサイズは29センチのため、
 なかなか日本のお店には置いていないので、毎年オース
 トラリアに帰るときに新しい靴を買うようにしています。
 また来月の話題をお楽しみに！



▲1年前に購入したThongsです。履き心地バツグンですよ！

まちの話題

～あの日、あの時～

小原の夏を満喫 第6回夏の検断屋敷まつり

8月15日、小原材木岩公園で6回目となる「夏の検断
 屋敷まつり」が開催されました。当日はお盆休みとあつ
 て市内外から約1,000人がまつりに訪れ、自然豊かな小
 原の夏を楽しんでいました。

恒例となった和太鼓演奏や桃の種飛ばし大会など、盛
 りだくさんのイベントで会場は大にぎわい。だるま落と
 し競技には、小さな子どもからお年寄りまで多くの方が
 参加し、おじいちゃんと孫と一緒に木づちを持ってだる
 まを落とす、ほほ笑ましい光景などが見られました。

こちらも恒例となった水中スイカ割り大会では、目隠
 しをして水に浮かぶスイカを割ろうとする子どもたちの
 姿に、来場者からは大きな歓声があき起こっていました。
 また、晴天に恵まれたこの日は、公園内の親水路で水

遊びをする家族連れが多く見られ、残り少ない白石の夏
 を満喫していました。
 11月8日には「秋の検断屋敷まつり」が開催されます。



▲スイカ目掛けて棒を「えいっ！」